

Step3-1

案内標示、照明の配慮

1 文字の書体・色、表示位置、ピクトグラム（図記号）の活用による表示のわかりやすさ

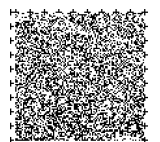
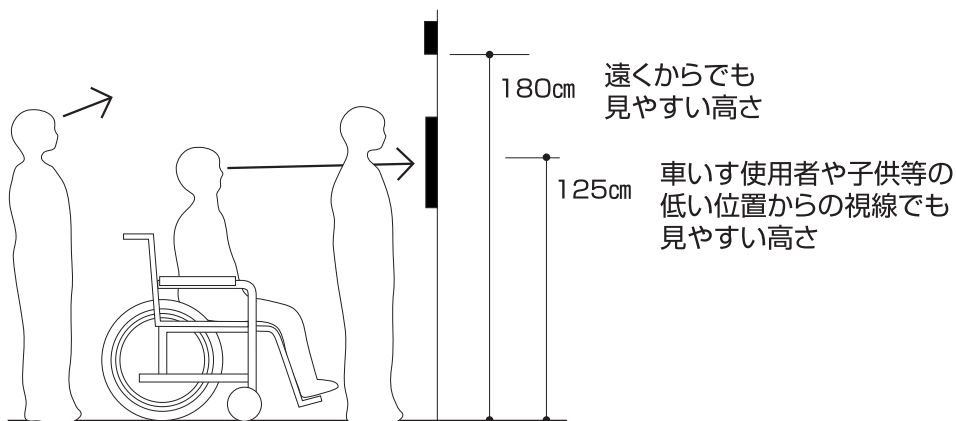
問題点と現状

- 視覚障害者は、全盲、弱視、視野狭窄、色覚障害など、人によって見え方が異なる。高齢者には、加齢による視力低下や白内障の人が多い。
- 明朝体の文字は、細い部分が見えない場合がある。
- 色覚障害者は、色の違いを識別しにくく、色の違いに意味を持たせたサインなどは、その違いがわからないことがある。
- 視覚障害者（弱視者）には、光がぎらついたり、白地の盤面や明るすぎる盤面は、まぶしく感じて、見えにくいことがある。
- 見えにくい人は、サインや文字に近づいて確認する人が多いので、高い位置の案内標示のみの場合は表示内容を読めないことがある。
- 視覚障害者の中で、点字を読める人は10%程度であり、点字対応をしても使えない人がいる。

整備の考え方

- (1) 文字の書体はゴシック体を基本とし、大きな文字で案内やサインを表示する。
- (2) 文字等の色と背景色は明度差を大きくするなど、色を使うときは、文字の配色（カラーユニバーサルデザイン）に配慮する。
- (3) 遠くから見える高い位置と、近づいて見える目の高さ、低い視線でもわかりやすい床面の表示などを併用する。
- (4) ピクトグラム（図記号）と文字表記を併用し、わかりやすい表示を工夫する。
- (5) 英語のみ（Cash、Women/Menなど）の表記は避ける。

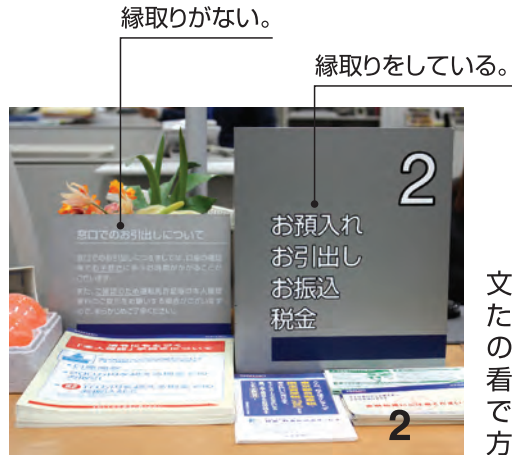
整備イメージ図



整備事例



1 高齢者や弱視の人も読みやすく工夫された書体を利用している値札



文字の見え方に配慮した例。背景色と文字色の明度差が少ない左の看板よりも、文字を黒で縁取った右の看板の方が読みやすい。



3 だれも見やすいよう、背景色を濃い色とし、文字を白抜きにした案内標示



4 大きくはっきりとしたピクトグラム（図記号）で表示

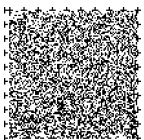


5 ベビーカー使用者や高齢者、子供は、足下に注意が行きがちなので、床に表示した低いサインは見つけやすい。

コラム 視覚情報の色について (カラーユニバーサルデザイン) 1

色覚障害の人は、日本人の場合、男性では20人に1人、女性は500人に1人いるといわれている。色覚障害の多くは、「赤と緑の区別」が付きにくい。

案内標示や印刷物等をつくるときは、色がなくても理解できるようにデザインし、その上で強調のために副次的に色を使うようにする。色だけに頼った情報提供をしない。



2 色相、明度、照明による空間のわかりやすさ

問題点と現状

- 視覚障害者（弱視者）は、床や壁、家具などの色や照明の変化が少ない場合には、空間の把握がしにくいことがある。
- 視覚障害者（弱視者）は、店全体が暗いと移動しにくい。暗い飲食店などでトイレに立つと席に戻れなくなることがある。

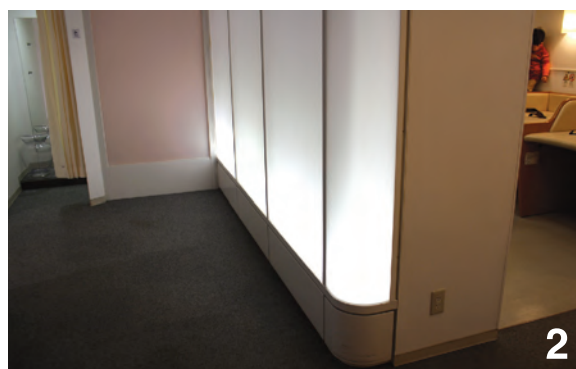
整備の考え方

- (1) 主要な通路、案内所、テーブルの番号、段差や危険がある場所は、明るく、目立つようにする。
- (2) 通路の床面に色や素材を変えたリーディングライン（移動経路を示す床の表示）を設け、歩行者の移動経路を明確にする。

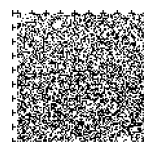
整備事例



案内所の上部と下部を照明などで目立たせ、遠くからでも発見しやすくしている。



壁に組み込んだ照明で、壁をわかりやすくしている。





床面の色と素材を変えて通路をわかりやすくしている。素材の違いは、カーペット部分は歩行者の快適性を、セラミックタイル部分は車いす使用者やベビーカー使用者の移動のしやすさを意図してつくられている。



エレベーター前ではカーペットの模様を変化させ、空間の違いを表している。



リーディングラインをつけて、店内を移動しやすくしている。周辺の床材と異なる素材としている。



色相・明度の差が大きい色を用いて通路にはっきりとしたラインを引き、歩行者の移動の経路を明確にしている。

コラム 文字の色彩について (カラーユニバーサルデザイン) 2

<色の選び方>

- ・赤は濃い赤を使わず、朱色やオレンジを使う。
- ・黄色と黄緑は赤緑色覚障害の人にとっては同じ色なので、なるべく黄色を使い、黄緑は使わない。
- ・暗い緑は赤や茶色と間違えるので、青みの強い緑を使う。
- ・青に近い紫は青と区別できないので、赤紫を使う。
- ・明るい黄色は白内障では白と混同するので使わない。

<色の組み合わせ例>

文字色と背景色の明度差をはっきりさせる。印刷物の場合、白黒コピーでも見やすいかどうか、ひとつの目安になる。

良い例 ○

読みやすい青と黄

読みやすい黒と白

読みやすい黄と黒

悪い例 ×

読みにくい赤と黒

読みにくい赤と緑

読みにくい茶と緑

「カラーバリアフリー 色使いのガイドライン」
(平成20年10月神奈川県発行)を参考に、一部編集

